

開会挨拶

2024年3月13日

「医療機関の障害者雇用に関するセミナー」の開催にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

本日は、この会場に福岡県内外から医療機関の皆さん 100 名ほどにご参加いただいております。改めて医療機関での障害者雇用に対する関心が高まっていることを感じます。

本日のセミナーは、福岡障害者職業センターと医療機関の障害者雇用ネットワークの共催で開催するものです。「医療機関の障害者雇用ネットワーク」は障害者雇用に取り組む医療の現場で工夫されたノウハウを共有し、全国の医療機関に向けて発信することを目的に、9年前に設立されました。ネットワークには、本日事例発表いただく博愛会病院を始め、障害者雇用に積極的に取り組まれている全国の医療機関や支援機関の皆さんに参加いただいております。

このセミナーは、医療機関の皆さんを対象としたものですが、「医療機関の「働き方改革」に貢献する障害者雇用」というサブタイトルにあるように、医療機関の皆さんの視点で、障害者雇用を進めることが医療の現場にどのような効果をもたらすのか、そのためにはどう進めれば良いかについて、皆さんに「腹落ち」いただくことを目的としています。

障害者の雇用率制度では、今年4月から始まる法定雇用率の引き上げや除外率の引き下げが予定され、医療機関でも障害者雇用を進めることが待たなしの状況です。人事担当の皆さんにとっては、ハローワークの指導も強まる中、現場の皆さんに障害者雇用の意義をどう説明し、理解してもらおうか、頭を悩まされていることかと思えます。

しかしながら、「受身の姿勢」「やらされ感」で形だけ整えようとして障害者雇用に取り組むと、上手くいかないことも多いでしょう。人材不足の時代において、こうしたことは大変もったいないことです。

一方で、障害のある人材を病院の戦力として活用している医療機関も、少しずつ増えてきました。これらの病院で共通しているのは、障害のある人のために障害者雇用をするのではなく、障害のある人たちが働くことで、病院で働く医療職や事務職の負担が軽減され、組織全体として高いパフォーマンスを発揮できていることです。それが、「医療機関の「働き方改革」に貢献する障害者雇用」ということです。

本日は、こうした点を中心に、病院で障害者雇用を進める際の「成功への道筋」についてお伝えするほか、障害者雇用をサポートする専門機関の立場で福岡市立障がい者就労支援センターの黒田所長にお話しいただきます。その後、博愛会病院の呼子様と原土井病院の鈴木様から、雇用する病院側の立場で事例発表いただくとともに、パネルディスカッションで皆様からの疑問にもお答えしていくことを予定しています。

本日ご参加の皆さんには、これまで障害者雇用の経験がなくどこから始めて良いか分からないといった方や、以前やってみたが上手くいかず病院内にも消極的な意見が強いといった方、これまで障害者雇用を進めてきたが更に拡大したいと考えている方など、それぞれの経験と思いは異なるでしょうが、本日のセミナーを通じて「こういう視点で取り組めば良いのか」「これならうちの病院でもできる」という思いを少しでも持ち帰っていただければと思います。

そして、本日のセミナーをきっかけに、皆さん同士でも医療機関での障害者雇用の工夫や課題について率直な情報交換ができると良いと思います。

主催者として、本日のセミナーが皆様の今後の取り組みに生かされることを祈念して、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日は、最後までよろしく願いいたします。